



多様な環境下における海洋教育の実践状況
-佐賀県下の10小学校を事例として-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育学部 公開日: 2016-08-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 周作 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5916

多様な環境下における海洋教育の実践状況

－佐賀県下の10小学校を事例として－

中村周作

Current Practices of Oceanic Education on Diverse Environments － A Case Study of the 10 Elementary Schools in Saga Prefecture －

Shusaku NAKAMURA

1. はじめに

筆者は昨年、長崎県上五島を事例として、海洋教育の実践状況に関する報告を行った¹⁾。上五島は、離島という海に最も親しみやすい環境にありながら、沿岸部でも漁業者の多い地区とそうでない地区において海への親しみ方に大きな差があり、街の学校に至っては、海に接する機会がほとんどないという状況すら認められた。そういった意味でも、海洋教育の重要性を再認識せねばならないことが理解された。

昨年度よりの継続研究として、離島ではないより広いフィールドを事例として、海洋教育の実践状況の把握を行う。具体的には、九州内でも比較的にコンパクトな県域の中で、有明海と玄界灘という2つの沿岸、平野、街、山間といった多様な環境を有する佐賀県下の10小学校を事例とする。佐賀県内には、現在10市10町がある。小学校は、それぞれ鳥栖市8校、佐賀市36校(小中一貫6校を含む)、神埼市7校、小城市8校、多久市3校、唐津市36校(分校3校を含む)、伊万里市16校、武雄市14校(分校3校を含む)、嬉野市9校(分校1校を含む)、鹿島市9校(分校2校を含む)、吉野ヶ里町2校、基山町2校、みやき町4校、上峰町1校、江北町1校、大町町1校、白石町8校、有田町4校、玄海町3校、太良町2校の計174校がある。その中から、各市町教育委員会に問い合わせて、海洋教育に関して特徴的な取り組みを実践している10校を選定させていただき、訪問しての聴き取り、および資料調査を実施した。中には、飛び込みでの筆者による有明海に関する模擬授業をさせていただいたところもあった²⁾。

本稿では、まず、各小学校における取り組みについて紹介し(第2章)、次に、海に親しむという海洋教育の重要ポイントをなす‘食育³⁾’に関して、佐賀県域に展開する魚介類食の多様性について紹介した上で、それらの学校教育への導入の意義と可能性について言及する(第3章)。その上で、学校のおかれた環境の違いによる取り組みの特徴と可能性について考察を進める(第4章)。



図1 調査を実施した小学校の分布

2. 海洋教育の実施状況（各校の取り組み）

1. 唐津市立湊小学校（所在地：唐津市湊町1291-2）

本校は、児童数が1年生16人、2年生26人、3年生18人、4年生18人、5年生27人、6年生29人の計134人ある。その名の通り、玄界灘沿岸に位置する小学校である。本校での海洋教育に関する取り組みは以下のとおりである。

1) **砂浜の清掃活動** これは、唐津市が主催する「ラブアース・クリーンアップ」活動の一環として、6月の第1日曜日に小学生・一般の方を含む数百人が参加して実施した。

2) **稚魚放流事業** 地元の唐津市漁業協同組合とタイアップして、今年（2015年）は6月2日（火曜日）に行った。参加したのは、本校の3年生と地元幼稚園児、マダイ、ヒラメ、カサゴなど毎年魚種を変えて放流しているが、今年はカサゴだった。



写真1 稚魚放流の様子

3) ^{かしわじま}神集島の海水浴場での海水浴、サンドアート 7月8日(水曜日)に半日かけて行った。参加したのは1・2年生42人、サンドアートでは、お城やクジラ、亀などいろいろなものを作っていた。

児童の感想：わたしは、すいようびに1・2ねんせいとふねにのってかしわじまにきました。かしわじまのすなばではんごことにわかれてあそびました。でかにおやまをつくりました。とてもたのしかったです。

[NKさん]



写真2 サンドアート作り

4) **地引き網体験** これは、学校行事ではなくて、公民館の子ども教室の事業として7月5日(日曜日)に北浜海水浴場で行われた。小学生の参加は、希望者のみ、なお、唐津市立鬼塚小学校からも希望した児童が参加していた。

本校校区は、海が身近にある。昔は、イワシ漁が盛んで、海岸で茹でた後干したニボシ作りが盛んであったが、漁業者の高齢化・減少に伴ってニボシもほとんど作らなくなった。子どもたちは、海に遊びに行くことはあっても、危険ということで泳ぐことが禁止されており、釣りに行くこともほとんどなくなるなど、近くにありながら海に日常的に親しんでいるとは言えない状況である。なお、校区内に神集島があり、2人の児童が船で通っている。こちらは、離島ということもあって、現在でも漁業が主要産業となっていて、海がより身近な存在と言えるだろう⁴⁾。

2. ^{うつぼぎ}唐津市立菴木小学校 (所在地：唐津市菴木町菴木306番地)

本校は、児童数が1年生16人、2年生19人、3年生18人、4年生13人、5年生15人、6年生9人の計82人ある。菴木町は、唐津市内でもかなり内陸に位置しており、特に本校校区は、昭和30年代半ばまで稼働していた炭坑地区であった。炭坑が閉山した後、当地に残った方々は、主要な職を失ったこともあって、経済的に厳しい面がある。

本校は、海から遠いために、普段海に親しむ機会はない。さらに、小学校の背後に菴木川が流れているが、ここも危険と言うことで、遊泳禁止の指導をしている。そういった意味で、子どもたちが自然の水に親しむ機会は、ほとんどないと言えよう⁵⁾。本校での海洋教育に関する取り組みは、以下のとおりである。

漁業体験 本企画は、唐津市とタイアップして4年生13人が参加して今年10月20日(火曜日)に実施した。それ以前に漁船に乗ったことのある児童はほとんどおらず、ましてや「魚を獲る」という体験は、皆初めてで、貴重な体験になった。その実施計画を以下に掲載する。

唐津市立菴木小学校4年生 漁業体験実施計画

1. 学習テーマ：定置網漁に挑戦し、漁師の人々の工夫や苦労を知ろう！
2. 目的：社会科「水産業」の学習の一環として、実際に漁場を見たり、生きた魚に触れたり、獲れた魚を調理したりして、水産業についての理解を深める。

3. 期 日：平成27年10月20日（火）
4. 場 所：唐津市鎮西町申浦漁港 漁港から船で5分くらいのところにある定置網
5. 参加児童：4年生13人（男子7人・女子6人）
6. 引率者：担任・教頭の2人と巖木支所および本庁より3人
7. 日 程：学校発 8：50
 申浦漁港着 10：00
 活動開始 10：10 1班：定置網引き上げ作業
 2班：漁港周辺清掃およびアジの開き作り
 昼食 12：00 獲れた魚の刺身，BBQなど
 申浦漁港発 13：30
 学校着 14：40
8. 交通手段：巖木支所所有マイクロバス
9. 見学の流れ：①児童代表挨拶
 ②主催者挨拶「唐津の海を守る会」代表：増本さん
10. 留意事項：目的や日程，内容について事前に十分指導する。
 ライフジャケット着用や船上での行動他，安全指導の徹底。
 マナーについての事前指導。
11. 携行品：着替え，ぬれてもよい靴，おにぎり，水筒

児童の感想（増本さんへの手紙）：10月20日のときは，いろんな事を教えてくださってありがとうございました。ちょうちんあみ漁をして，少ししか獲れなかったけど，山ばかりの筧木小学校なのでいけいけんになりました。魚のさばき方も頭はとっても固かったけど，やさしく教えてくださいましたね。漁をしてみても，ほくも大人になったらやってみたいと思いました。またちんぜい町で，つりやいろんなことをやってみたいです。 [KF君]

3. 唐津市立呼子小学校（所在地：唐津市呼子町呼子3000-1）

本校は，児童数が1年生37人（2クラス），2年生47人（2クラス），3年生42人（2クラス），4年生43人（2クラス），5年生36人（1クラス），6年生38人（1クラス）の計245人と比較的規模の大きな漁村地区にある小学校である。呼子は，かつては捕鯨基地として，現在はイカ釣り漁業の拠点として佐賀県下でも有数の漁業拠点である。ただし，漁業者は年々減っており，児童の祖父は漁師だが，親は会社員という家庭が多く，漁業の町というよりも，現在は商業の町というほうが適切である。ちなみに，アジを3枚におろせる子が4～5人はいる。海に親しむ機会に恵まれた同校では，海洋教育に関わるいろいろな取り組みがなされている⁶⁾。

1) 小川島漁業集落（小川小学校）との交流事業 6月29日（月曜日）に唐津市が主催して行っている離島漁業再生支援交付金事業として，小川小学校と呼子小学校児童による漁業に関する学習会や種苗放流体験を行った。本校からは，5年生が参加した。本件の企画計画は以下の通りである。

平成27年度 交流事業予定計画書 (カサゴ種苗啓発放流)

実施日：平成27年6月29日 (月)

主 催：小川島漁業集落

■学習会・種苗放流

- 13：00 小川小学校 定期船により小川島発
- 13：40 小川小学校 呼子着 ジーラ発着所前集合
- 13：20 呼子小学校発
- 13：40 呼子小学校 ジーラ発着所前に集合
- 13：45 旧JA唐津呼子支所2階大研修室へ移動
- 13：50 開会
- 13：55 《学習会》講師：佐賀県玄海水産振興センター技師 明田川 貴子氏
～14：10
- 14：10 小川島漁船より波戸浮き栈橋にてカサゴ種苗1,000匹受領
- 14：20 マリンパル前にてケンちゃん、サキちゃんと記念撮影
- 14：30 ジーラ乗船、出航
- 14：45 鷹島周辺到着 3組に分かれて種苗放流
- 15：00 海中見学 (～15：20)
- 15：35 帰港
- 15：45 閉会
- 15：50 呼子小学校現地解散



写真3 学習会の様子



写真4 記念撮影



写真5 海中遊覧船ジーラ



写真6 カサゴ稚魚放流

2) **宿泊訓練** 5年生が参加して夏休み7月末に1泊2日で「波戸岬少年自然の家」⁷⁾にて海の体験を主とする宿泊訓練を行っている。

3) **調理実習** 10月29日(木曜日)祖父母参観日に、6年生と祖父母一緒に、当地の名産であるイカシューマイとアジの開き作りを行い、皆で食べた。

4) **小友海岸堤防壁画作成** 毎年同堤防にて6年生の卒業記念に壁画を皆で描いている。過去20年ほど続いている事業である。



写真7 調理実習の様子



写真8 壁画作成中

5) **4年生による1/2成人式** 本年度は、学校創立140周年(明治8年、1875年開校)の記念の年であった。呼子の沖合にある烏帽子島灯台も、くしくも開設140周年ということで、今年は灯台で使っていた灯籠をタイムカプセルにして子どもたちが書いた手紙を入れて保存するという事業を行った。



写真9 1/2成人式の様子

4. 伊万里市立牧島小学校 (所在地:伊万里市瀬戸町216)

本校は、児童数が1年生13人、2年生18人、3年生10人、4年生8人、5年生22人、6年生6人の計76人、各学年1クラス(全6クラス)の学校である。本校は、伊万里市街地の北郊に位置する前面を伊万里湾に望む沿岸の小学校である。伊万里湾の多々良海岸には、国の天然記念物に指定されているカブトガニ(地元名:ハチガメ)の繁殖地があり、本校ではこの貴重生物の飼育・放流に関する特徴的な海洋教育の取り組みを行っている。もともと、地元の伊万里高等学校理化学部が50余年にわたるカブトガニの保護・研究を行っており、夏場に卵から孵った幼生を飼育して秋に近隣の牧島小学校、波多津東小学校、伊万里中学校、国見中学校の4校に配布し、翌年夏に放流できるようになるまでの間、この4校で飼育をしている。ちなみに、本年度の牧島小学校への配布数は、約200匹であった。本校では、幼生の日常的な世話として、餌やり、毎日数を数える、水温調整、週1回多々良海岸まで水汲みに行つての水槽水の入れ替えを行っている。また、年1回「牧島のカブトガニとホタルを育てる会」が主催する多々良海岸の清掃活動に、6年生の希望者のみではあるが毎年参加している⁸⁾。



写真10 伊万里高校から譲り渡されたばかりのカブトガニの幼生



写真11 カブトガニのつがい「伊万里湾カブトガニの館」にて撮影

5. 佐賀市立小中一貫校北山校^{ほくざん}（北山小学校）（所在地：佐賀市富士町大字中原342番2）

本校は、小中一貫校であり、児童・生徒数が1年生7人、2年生4人、3年生7人、4年生8人、5年生8人、6年生6人、中学校の7年生6人、8年生8人、9年生7人の計61人の小規模校である。筑紫山地のほぼ中央に位置しており、隔海度が県内でも最も大きい山間の学校である。このため、子供たちが海に親しむ機会は、夏休みに家族で個別に出かける場合を除いてほとんどない。

本校は、他の地域との交流が難しい山間地ではあるが、昨年よりテレビ会議の機器システムを導入して遠隔地の学校との交流を図っている。現在は、先述した海・離島の唐津市立小川小学校（小川島）やオーストラリア東海岸のリズモア校やメルボルン北郊のシェパートン校との交流を行っている。特に山の学校である北山校と海の学校である小川小学校との交流授業について以下、それぞれの授業案を見ながら解説を加える。

第5・6・7年「総合的な学習の時間」合同授業指導案

児童生徒 7年生6名 6年生6名 5年生8名
場 所 音楽室
指導者 小学部教諭 野上美香
中学部教諭 南里貴子

1. 単元名 ふるさと北山の農業をPRしよう ～小川小学校編～
2. 単元と指導

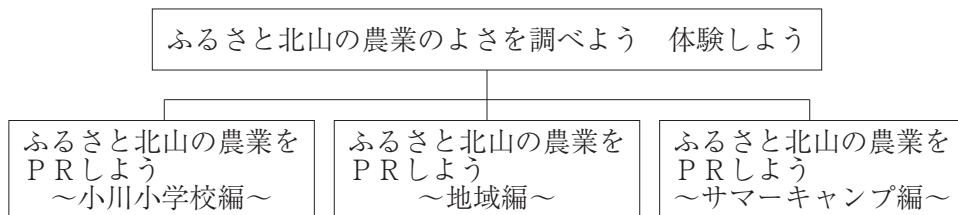
1) 単元について

本校は、佐賀市の最北に位置する自然に恵まれ、四季折々の変化が見られる学校である。平成20年度より小中一貫校としてスタートして現在に至っている。校区内は、気候風土やきれいな水を生かし、林業や農業が盛んな地域である。

本単元は、様々な特色をもつ自分の生まれ育った地域の産業にスポットを当て、今までの学習で学んだ北山のよさを振り返り、体験的な学習や調べ学習を通してさらに追及していくことで、課題解決学習へとつながると考えた。

また、学習したことを地域の方々や他地域の児童生徒に発信することで課題意識、目的意

識をもって学習に取り組める単元である。



2) 児童生徒の実態

本校の5・6・7年生は、小中一貫校の中期として、総合的な学習の時間を一緒に学習している。5年生は、調べたことや自分の考えを人前で話すことは好きで表現力もある。しかし、相手に分かるように話したり、相手の話をよく聞いたりすることが苦手である。また、資料を読み取ったり、書いてまとめたりすることが苦手な児童が数名おり、支援が必要である。6年生は、進んで発表することは少ないが、自分の課題に向け、調べ学習を行うことはでき、インタビューなどの情報収集は積極的に取り組むことができる。

7年生は、昨年の総合的な学習の時間において、課題を自ら発見し、それについて自分で考えたり、調べたりする力を身に付け、物事に対して意欲的に取り組むようになった。しかし、6年生と同様で、人に説明したり、自分の考えを伝えたりすることに対しては苦手意識をもっている。

北山の農業については、野菜が新鮮、水がきれいよく育つなど良いイメージをもっている。保護者が農業をしている児童生徒が大半で、田植えや野菜作りなど家の手伝いをしている。また、学校で、前期の時には、田植え・稲刈りを体験したり、総合的な学習の時間に野菜を育てた経験をしたりしている。

3) 指導にあたっては

本単元では、小規模校ゆえに人間関係が固定化し、人間関係構築力を身につけることが難しい児童生徒に小川小学校とのテレビ会議システムを使った遠隔地交流を行うことで、質問力、応答力、コメント力などのコミュニケーション能力を高めたいと考えた。

小川小学校に北山の農業のよさをPRすることを児童生徒に知らせ、目的意識、相手意識をもたせることで意欲をもって活動を続けることができるであろう。さらに、相手意識をもたせることで、どのような内容や言葉、発表方法がふさわしいかなど考えることができ、コミュニケーション能力の育成につながるであろう。

JAや加工場など地域の施設や家庭との連携をはかり、地域に根差した情報を集め、北山の農業のよさに気づかせていきたい。

実際に、学校の畑で野菜を育て、その成長を記録させることで、体験したことの中から今後の学習の課題や追及したい内容を考えさせて学習の発展を目指していきたい。

毎時間、授業の最後には、今日の学習したことのまとめや次時に学習することをグループごとに発表させ、互いに意見交換することで、次時の学習への見通しをもたせたい。小川小学校という海に近い学校とのテレビ会議システムを使った交流を行うことで北山と小川と比較し、地域のよさを再確認させ、さらに小川小学校に発信させたい。また、小川島のよさに

ついても気づかせたい。

3. 単元の目標

- ・小川小学校に北山の農業のよさを伝えるための表現方法を見つけさせる。
 (課題を発見する力)
- ・小川小学校との交流を通して、北山と小川島の地域の特色を比較することで、北山の農業に対する理解を深めさせる。
 (課題を追及する力)
- ・テレビ会議システムを使った小川小学校との交流を通し、場に応じた発言や態度で、相手に伝わるような表現方法に気づかせ、コミュニケーション能力を高めさせる。
 (表現する力)

4. 単元の評価規準

- 北山の農業のよさを伝える方法を見つけることができる。
- 交流を通して、北山校と小川島の農業の共通点や相違点を見つけることができる。
- 北山の農業について、場に応じた発言や態度で小川小と交流し、相手に伝わるような表現方法で発表することができる。

5. 指導計画 (10時間)

- ・自己紹介をしよう 1時間
- ・北山PRの準備をしよう 2時間
- ・北山をPRしようPART I (中間発表) 2時間 (本時2/2)
- ・北山PR本番にむけて準備をしよう 3時間
- ・北山をPRをしようPART II (本番) 2時間

6. 本時の計画 (5/10)

(1) 目標

- 北山の農業について、場に応じた発言や態度で小川小と交流し、相手に伝わるような表現方法で発表することができる。
 (表現する力)

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導・支援 (○) 評価 (◆) 思考を深める手だて (☆)	
		T 1	T 2
つかむ	1. 本時のめあてを確認する。	○前時の交流を振り返り、相手に伝わるようなPRの仕方について確認する。 ○発表者グループに、話す速さ、間、表情など意識させる。	○小川小の友達の反応(間、表情など)も見ながら北山校の発表を聞くようにさせる。
見通す	2. 発表の手順を確認する。 ①発表 ②ワークシート記入 ③感想交流 (キーワードあて 発表のよいところ アドバイスなど)	○学習の流れを提示し、児童生徒に学習の見通しをもたせる。	○発表を聞く時には、発表グループのキーワードを考えることや友達の発表のよさやアドバイス、質問などは感想交流で発表することも知らせる。

<p>考 え る</p>	<p>3. 班ごとに発表して、感想交流を行う。</p> <p>北山のお米（1班） キーワード 米の種類と作り方 工夫 北山校でとったアンケートをもとに発表</p> <p>小川小へ 給食のコメの種類などを知りたい。</p> <p>野菜の旬（3班） キーワード 北山の野菜の旬 工夫 生育条件の違いを比較して発表</p> <p>北山の地形や気候（5班） キーワード 北山の地形や気候 工夫 小川の地形との比較</p> <p>小川小へ 小川との地形の違いをもっと知りたい。</p>	<p>○司会を行う。</p> <p>○発表グループの支援を行う。</p> <p>○相手に伝わっているか反応を見ながら発表させる。</p> <p>○班ごとに発表が終わってからワークシートを記入する時間をとり、表現方法の工夫に気づかせる。発表者についても、自分たちの発表について振り返らせる。</p> <p>○発表グループにキーワードの答えを発表させる。</p> <p>○小川小の友達を中心に発言させる。</p>	<p>○発表を聞いている児童生徒の支援を行う。</p> <p>○キーワードを考えさせることで、聞こうとする意識を高める。</p> <p>○キーワードを考えた理由についても記入させる。</p> <p>○ワークシートは、発表後に記入させ、発表中は聞くことに集中させる。</p> <p>○発表の良い点は、発表方法や表情、間などの表現の工夫について意識させる。</p>
	<p>深 め る</p>	<p>キーワードは、地形と気候だと思います。理由は、北山と小川との地形と気温の違いを発表していたからです。</p> <p>1班は、北山で作られるお米についてアンケートをとってグラフにしていたので分かりやすかったです。</p> <p>ゆっくり話していたのはとてもよかったです。もっとよくするために友達の反応も見ながら発表したらいいと思います。</p>	<p>発問「○○について理由を述べながら発言しよう」 (理由づけ) ☆キーワードを考えた理由だけでなく、発表の良かった</p>
<p>ま と め る</p>		<p>4. お互いに質問する。 (質問タイム)</p> <p>5. 今日の学習をふりかえる。</p>	<p>○感想交流の時には、やりとりが続くように声をかける。</p> <p>◆友達の発表を聞いて、相手に伝わるような表現の工夫に気づくことができたか。(観察・ワークシート) つまづいている児童生徒については、友達の発言やワークシートを参考にさせる。</p> <p>○前時と本時の発表の聞いて知りたいことを互いに質問をさせる。</p> <p>小川小の先生にも、発表のよさやアドバイスを言ってもらい、さらに北山のよさをPRしよう</p>

		という意欲を持たせる。	
		○交流の感想を記入させる。	

第5・6年総合的な学習の時間 合同授業 指導案

日 時：平成27年10月14日（水）

場 所：小川小学校 2階 特別教室

児童生徒：小川小学校 5年6名・6年8名 計13名

北山校 5年8名・6年6名・7年6名 計20名

指 導 者：小川小学校 教諭 坂田輝人

北山校 小学部教諭 野上美香

【授業の視点】意見交流のやり方は、有効であったか。テレビ会議システムの使用法は有効であったか。

1. 単元名 北山校と交流しよう ～小川島のことを伝えよう～

2. 単元とその指導

1) 単元について

小川小学校は島の学校であり、人数も少なく複式学級となっている。小学生のみならず、中学生も全員知っており、さらに言えば島民全員が知り合いというような状況で生活している。

そのため、知らない人との交流の際には、自分の意見を言ったり主張したりすることが苦手である。その点を克服するため、スピーチタイムを設け、意見を述べたり、質問や感想を言ったりするスキルを身につけさせる取り組みをしている。そのスキルを高める方法の一つとして、テレビ会議システムを活用し、島以外の人との交流を進めている。

今回は、2度目の北山校との交流である。1学期に北山校の中期生（5・6・7年）が、「北山のPRをしよう」ということで発表をした。それを聞くことで発表の仕方を学ぶ機会となった。また、テレビ会議システムに慣れるための第一歩としての側面もあった。それらを受けて、今回は、本校が小川島のことを北山校の児童生徒に紹介する。前回の北山校の発表を生かしてよりよい発表にするため、各班で協力しながら工夫をするように意識させたい。あわせて、テレビ会議システム活用法の試行の機会としたい。

2) 児童の実態

本校の5・6年生は、純朴、素直でまじめであり、学校生活において大きな問題はない。これは、島というお互いを良く知っている中、3世代同居、あるいはすぐ近くに祖父母がいる温かい環境で大切に育てられているからだと考えられる。友だちに対する優しさも持っており、そのうえ、それぞれが個性的で大変楽しい学級である。

発表することについては、低学年の時から、スピーチタイムで表現力をつける活動をしており、全員がスピーチ原稿作り、発表、司会ともにそれほど支援がなくても自力でできる水

準にある。

ただ、意見交換や討論となると、なかなか自分の意見が言えず、人任せになりがちである。そこには、自信のなさも見え隠れしており、自己肯定感が低い子も数人いる。したがって今回は、発表するだけでなく、発表を聞く側において、自分に自信を持ち、討論や意見の交換を楽しめるような力をつけさせたい。

3) 指導について

小川島のことは、これまでも総合的な学習の時間の中で調べて発表してきている。小川島の良さ、独特の文化、昨年より継続しているゴミについての3項目である。今回は、今まであまり調べていない小川島の歴史のこと、これから小川島に住んでいくために未来をどうすればよいかの2項目を加え、北山校に紹介することにした。これにより、それぞれの発表について小川小の児童も興味を持って聞くことができる。

また、今回、発表について司会を児童に任せてみることにした。子どもたちは、スピーチタイムにおいて司会進行の経験はある。ただ、スピーチタイムにおいては、マニュアルがあり、それを読みながら話を進めている。今回の授業では、司会の進行の仕方は、児童が自分の言葉で進めるようにしたい。ただ、発表の内容によっては、かなり臨機応変に対応する必要があるため、教師が適宜支援していきたい。

聞き手については、発表内容をメモし、意見を言うときの手助けとするために、ワークシートを準備しておく。

3. 単元の目標

- 各自の設定したテーマで北山校に小川島の紹介をする。(課題を発見する力)
- テーマに沿って調べる。(課題を追究する力)
- 調べたことをまとめて発表する。(表現する力)
- 司会をする。(表現する力)
- テレビ会議システムに慣れる。(学習環境の積極的な活用)

4. 単元の評価規準

- 自分でテーマを決め、課題を見つけることができる。
- テーマに沿って、様々な手段を使い調べることができる。
- 調べた内容を分かりやすくまとめて発表することができる。
- 司会者として、発表会が円滑にいくように進行することができる。
- 会議システムを楽しみながら利用できる。

5. 指導計画 (10時間)

次	時 数	内 容	備 考
1次	2時間	小川島を紹介するテーマを決めよう。	
2次	5時間	テーマについて調べてまとめよう。	
3次	2時間 (本時2 / 2)	発表会をしよう。	北山校との交流
4次	1時間	発表会を振り返ろう。	

6. 本時の計画 (9/10)

1) 本時の目標

- ・発表者：テーマについてまとめたことを発表する。(表現する力)
- ・司会者：円滑に発表会をすすめる。(表現する力)
- ・聞き手：自分の意見に理由をつけて発表する。(表現する力)

2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援(○)、評価(◆)	備考
お	1 本時のめあてを確認する。	○ワークシートを配布する。 ○テレビ会議システムの作動状況に注意する。	ワークシートの準備
か	テーマごとに小川島の発表をしよう。		小川独特の文化のとき鯨骨切り唄を披露する太鼓の準備
	2 小川の歴史の班が発表する。 3 ワークシートの記入をする。	聞き手の向きを発表者の方に変える。 ◆発表の仕方について ○机間巡視, 適宜支援する。 ◆ワークシートの記入について	
わ	4 交流をしよう (1) 発表者に質問をする。 (2) 内容や話し方の良かった点, 改善点, 工夫することや感想を発表する。 5 小川独特の文化班, 小川の未来班についても2~5を繰り返し行う。	○指名の手助けをする。 ◆円滑な司会について ○机間巡視, 適宜支援する。 ◆意見について	
し	全体の感想を書こう。		まとめ用ワークシート
ま	6 5つの班全部を聞いてみての質問等があれば出す。 7 質問されたら答える。 8 発表会のまとめの感想を書く。 9 発表会のまとめの感想を発表する。 10 教師の話聞く。	○北山校の野上先生の感想を聞く。 ○坂田が総括をする。	

3) 本時の評価基準

評価基準〈評価方法〉		A：十分に満足できる	Bになるための手立て
発表者	調べたことが伝わるように発表できる。〈観察〉	聞き手がわかりやすいように工夫した発表ができていく。	事前に発表を聞き改善すべき点について支援しておく。
司会者	発表会が円滑にいくように進行できる。〈観察〉	発表後の質疑や意見交流が円滑にいくように進める。	適宜支援する。 発表会の進行のマニュアルを準備しておく。
聞き手	自分の意見に理由をつけて発表できる〈ワークシート〉	理由をつけて意見を言うことができる。	ワークシートをもとに意見を言えるように支援する。



写真12 7月1日研究授業
北山の紹介発表 農産物の説明



写真13 10月14日研究授業
小川島クジラ骨切り唄の披露

北山校は、山間にあつて海に親しむ機会に恵まれない立地環境にあるが、そういった地理的ハンディをネットを通じたテレビ会議を使うことで克服し、山中にありながら、学習上の視野を海に、そして世界に広げることができた好事例とすることができよう。今後可能ならば、テレビで見るだけでなく、実際に小川島に足を運んでの実体験ができれば、さらに深い交流ができるであろう⁹⁾。

6. 佐賀市立勸興小学校（所在地：佐賀市成章町3-16）

本校は、児童数が1年生51人、2年生47人、3年生53人、4年生56人、5年生51人、6年生54人、特別支援学級13人の計325人ある。JR佐賀駅のすぐ南、佐賀市のど真ん中に位置する街の学校である。学校の歴史も古く、1781（天明元）年に8代藩主鍋島治茂によって開設された藩校弘道館に由来する。街中の学校で、海にもかなり距離があるため、普段子どもたちが海に親しむ機会はほとんどない。本校での海洋教育に関わる取り組みは、以下の通りである¹⁰⁾。

宿泊学習 5年生が参加して「波戸岬少年自然の家」での2泊3日の学習活動で、今年は5月18日（月）～20日（水）の日程で実施した。カッター体験がメインであったが、つらかったことが後述の児童の感想でもわかる。以下、活動プログラム（一部抜粋）を紹介する。

活動プログラム

第1目 5月18日(月)

時刻	活動内容	場所	注意事項	雨天時
8:00	登校	運動場	行けない場合7:30までに学校へ連絡。	体育館
8:30	出発	運動場	トイレ、忘れ物確認。	
10:30	出合いのつどい	少年自然の家		出合いの広場
11:00	入室	各部屋	寝具係 シーツを受け取る。	館内見学
		集いの広場		
12:00	昼食	集いの広場	弁当、水筒を持って集合場所へ	昼食
12:30	カッター体験	集いの広場	グループごとに集合場所へ	インドアビン
		港	徒歩で港まで移動	ゴ+出し物練習
16:00	休憩・荷物整理	各部屋	身の回りの整頓	練習
17:00	夕べの集い	集いの広場	すすんで挨拶、旗係は、旗を持って行く。	体育館
17:30	夕食	食堂	食事係 テーブルをふき、椅子を整える。	
18:30	入浴	浴場	入浴係 最後片付け、忘れ物チェック。	
19:30	ナイトハイキング	集いの広場	整列	ビデオ鑑賞
21:30	リーダー会議	談話室	リーダーと班長 会議明日の予定等	怖い話
	日記と反省	各部屋	副班長 日記を書かせる。	
22:30	就寝		部屋からでない。おやすみなさい。	

第2日目 5月19日(火)

時刻	活動内容	場所	注意事項	雨天時
6:30	起床・洗面・寝具整理	各部屋	起床時間まで部屋から出ない。 寝具係整頓チェック。	体育館
7:00	朝の集い	集いの広場	5分前集合	
7:10	清掃		清掃係 清掃確認。	
7:30	朝食	食堂	水筒にお茶を入れる。	
9:00	野外炊飯	キャンプ場	準備をして炊飯場へ移動	キャンプ場
	片付けチェック		説明をよく聞き、けがのないように。	
	休憩・準備	各部屋	皆で協力して後片付けをする。 焼杉が始まるまでに、振り返りを書いたり キャンプファイヤーの練習をしよう。	
14:00	焼杉	実習室		
16:00	キャンプファイヤー準備	各部屋	キャンプファイヤーの出し物練習。	
17:00	夕べの集い	集いの広場	集い終了後、各部屋で入浴、夕食準備。	
17:30	夕食	食堂		
18:30	入浴	浴場		
19:30	キャンプファイヤー	营火場	おごそかに そして楽しく!	キャンドルの集い(大研修室)
21:30	リーダー会議	談話室	リーダーと班長 会議	
	日記と反省	各部屋	副班長 日記を書かせる	
22:00	就寝		早めにおやすみなさい。	

第3日目 5月20日(水)

時刻	活動内容	場 所	注 意 事 項	雨天時
6:30	起床・洗面・寝具整理	各部屋	持ち物、荷物の確認。帰る準備をする。 寝具を片付ける。 寝具係 先生の確認後、リネン室に返却。	体育館
7:00	朝の集い	集いの広場	水筒にお茶を入れる。 清掃係 担任の先生に確認してもらう。	
7:20	朝食	食堂		
7:50	部屋の清掃 シーツの返却 清掃	各部屋		
8:30	荷物の整理と移動		3日間の反省、日記などの整理。忘れ物確認。リュック、水筒、タオルなどウォークラリーに必要な物を準備し、帽子をかぶって集合。	ドッチボール +インドアピ ンゴ+レクリ エーション+ 「振り返り」 の記入
8:45	ウォークラリー	集いの広場	説明をよく聞きましょう。 勝手な行動をしないで最後まで班で行動しよう。進んで挨拶しよう。	
12:30	昼食	食堂	班ごとに楽しく食事。	
13:15	別れの集い	集いの広場	お世話になったお礼の気持ちを伝えよう。	「振り返り」 の記入
15:45	学校着	運動場	疲れていても最後まで整然と。 先生方に元気に挨拶する。	
16:00	解散		まっすぐ家に帰る。おつかれさまでした。	

児童の感想：私は、カッター体験を通して、漁師さんなどは大変だなあと思いました。理由は天気が変わりやすい海の上で仕事をするので、とても大変です。そして、私が一番心に残ったのは、天気があると、思ったよりもイメージが違うことです。たとえば、「海」と言われて多くの人は、「海水浴」を想像します。それと同じことです。私も「カッターボート」と言われて、楽しい方を想像してしまいました。私は、このカッター体験を通じて、海のきびしさを知りました。



写真14 カッター体験の様子

7. 佐賀市立東与賀小学校（所在地：佐賀市東与賀町大字田中453）

本校は、児童数が1年生80人、2年生84人、3年生91人、4年生94人、5年生100人、6年生94人の計543人、各学年3クラスの大規模校である。本校は、佐賀市の南郊、昔日の干拓地の縁辺にあり、有明海とラムサール条約の登録湿地である干潟¹¹⁾に近いこともあって海洋環境とその保全・保護に対する意識が、教員、児童ともに非常に高く、海洋教育に関わる取り組みを3年生から5年生まで順次積み上げて実施している。本校での海洋教育に関わる取り組みは、以下の通りである。

1) 3年生のよかつ子タイム学習「有明海博士になろう」 この取り組みは、総合的な学習の時間を使って1学期に行っているもので、指導計画案（一部省略）は、以下のとおりである。

よかつ子タイム学習計画案

1. 単元名「有明海博士になろう」

2. 単元構成：4～7月の総合的な学習の時間を使う。

有明海の生き物や有明海での伝統的な漁を学ぶことを通して、東与賀の自然のすばらしさに気づかせる。

3. 指導計画

学習内容	時数	留意点・地域ゲスト名
○有明海の自慢の物を探そう。 調べ方を学ぼう。	4月	・1学期の総合の大まかな流れを子どもたちに紹介し、見通しを持たせ、有明海の自然に目を向けさせる。 ・子どもから有明海の素晴らしい物をいくつかあげさせる。 ・インターネットの使い方も指導する。
○自分が決めた有明海の自慢を くわしく調べて発表しよう。	5月	・詳しく調べたい物を1つ決め、グループごとに調べる。 ・H26年度は、1組でシチメンソウ、2組で有明海の生き物と、学年の枠を超えて目的に応じたグルーピングをして調べ学習を進めた。
○有明海でとれるエビの調理体 験をしよう。		ゲスト 東与賀漁協支所長さんと婦人部の方々にお手伝いをお願いした。*事前打ち合わせと連絡が必要。 *支所長さんに有明海の伝統的な漁について教えてもらう。
○干潟体験	6月	・佐賀県有明水産センターとその敷地内にある「びよんた」というお店に出向き、干潟の体験活動と有明海の漁や生き物について学ぶ。
○調べたことをまとめ、発表す る。	7月	・自分たちで調べたこと、体験活動を通して学んだことなどを学年発表会で紹介する。 ・1学期調べたことやわかったことを新聞にし、学習の振り返りする。



3年生の作成した新聞の一例

2) 4年生の環境学習会 本年10月28日に実施した。

目的：①クリークって何？昔と今、役割、環境問題について学ぶ。②クリークと周辺にはどんな生き物がいるのか？専門家からの解説とクリーク内の魚介類に直接接触し、クリークの生き物について学ぶ。③クリークの周辺を見て、農地や農業、自然環境などについて学ぶ。

活動内容：①クリークを知る。②生き物コーナー、③クリークの周辺を知る。

4年生「クリークについて学ぶ」(大義建設、農水省等の支援)



写真15 クリークの役割



写真16 クリークのゴミ



写真17 クリークの生き物

3) 5年生のよかつ子タイム学習「東与賀の自然と環境問題について考えよう」

単元のねらい：有明海の自然について調べたり、環境保全運動を推進している講師の話聞くことで、地域における自然環境の現状と問題点を理解するとともに、身近な自然を守るためにできることを考えて実践できるようにすること。

活動内容：①野鳥他自然観察会。②有明海の自然や環境について現状・課題を調べ、解決策を考える。

児童の感想：野鳥観察では、ほかでは見れないような生き物がたくさんいてびっくりしました。ハマシギ、クロハラツラサギなどいろいろな種類の鳥をじっくり観察できてよかったです。干潟の生き物では、カニの足かた取りで、とてもちっちゃい足かたを取れてよかったです。そして有明海の土からでてきたのは小さい貝などで、有明海は、生き物の町みたいだなと思いました。私が伝えたいのは、干潟には見たこともない不思議な生き物がいて、とってもすごい所だと教えたいです。ほかにも干潟には、ぜつめつきぐしゅの鳥たちがたくさんとんできてきれいだよと伝えたいです。今日行って思ったことは、干潟はシオマネキやムツゴロウ、トビハゼぐらいしかいないと思っていたけど、鳥や小さな生き物がこんなにいっぱいいるとは思いませんでした。また、行きたいです。 [MOさん]

干潟の野鳥・生き物観察 5年生

ラムサール条約登録を受けた東よか干潟について、「野鳥と生き物」の視点から直接体験する学習をしました。これを機に、環境の保全にまで学習を発展させていきます。



写真18 野鳥の会の方と観察



写真19 佐賀大学生とカニの巣穴取り



写真20 干潟の生き物調査

4) 観光ジュニアガイド この取り組みは、学校ではなく、「東与賀ラムサールクラブ」が主催する活動であり、地元の東与賀小学生・中学生が参加している。具体的な活動としては、

- 5月 開講式
- 6月 有明海の不思議を探そう
- 7月 条約登録記念イベントへの参加
- 10月 佐賀市の環境について学ぼう、シチメンソウまつりへの参加
- 12月 鳥について学ぼう
- 1月 1年間の活動をまとめよう。

となっている。以上のように、東与賀小学校では、学校全体としての積極的な取り組み姿勢が、様々な活動展開につながっていることがわかる¹²⁾。

8. 太良町立大浦小学校（所在地：太良町大字大浦丁348番地）

本校は、児童数が1年生21人、2年生29人、3年生34人、4年生28人、5年生39人、6年生32人、特別支援学級6人の計189人となっている。「月の引力が見える町」と称される太良町の南端、長崎県境に位置する大浦小学校区は、もともとワタリガニ（竹崎ガニ）の生産やタイラギを獲る潜水漁業の拠点であったが、カニもタイラギも不漁続きということもあって、外地への潜水土木出稼ぎが増えており、地元漁業者の減少が著しい。そういうこともあって、海に非常に近い学校ではあるが、子どもたちが日常海に親しんでいるとは言えない。本校での海洋教育に関わる取り組みは、以下の通りである。

1) 5年生の漁業体験 本年6月23日（火）に1日使って総合的な学習として実施した。5年生を2班に分け、1班は午前中船で海へ出たの投網体験および有明海の中央にある岩礁に灯台が設置されている沖の島に上陸体験、2班は港で釣り体験を行い、午後は1・2班が活動を交替した。

5年生漁業体験日程

1班	7:30	広江港集合・点呼・ライフジャケット着用	2班	7:30	広江港集合・点呼・ライフジャケット着用
	8:00	出港 刺し網引き体験		8:00	広江港で釣り体験
	9:50	帰港 広江港で釣り体験 昼食		10:30	出港 刺し網引き体験
	13:30	下校		12:30	帰港 昼食
				13:30	下校

児童の感想：ほくは、今日初めて漁業を体験しました。1班と2班がありました。ほくは1班だったので最初に行きました。船に乗って途中いろいろ教えてもらいました。すごいスピードが出たりしたのでびっくりしました。特におもしろかったのはあみひきです。サメやクチゾコ、ほかにも色々釣れました。ひくのは意外に重かったです。魚をさわって写真もとったし、でかいのが2匹ぐらいいてすごいと思いました。次に沖の島まで行きました。来る時30分、帰りに30分で1時間ぐらいかかりました。2班が行ったあと、ほくたちは釣りをしました。何も釣れなかったののでよかったです。2班も戻ってきて弁当と一緒に食べました。おいしかったです。本当に今日の漁業体験は楽しかったです。 [TM君]

6月26日（金曜日）5・6時限目にも第2回目の漁業体験を実施した。5年生が参加し、最初にクイズを通じて漁業や魚を知る学習、その後プールでの投網体験や魚を触るなどした。

児童の感想：6月26日金曜日の5・6時間目に漁業体験をしました。漁協青年部の人たちにたくさん来てもらいました。最初に写真を見ながら説明をしてくれました。網の重さは、普通9kgぐらいで、重くて14kgあるということや、たまには熊本まで行ったりするなど、たくさん

のことを教えてもらいました。次にクイズをして、10問中9問当たりました。1位になれたのでよかったです。そして私が1番楽しかったのは、生き物をさわったり見たりしたことでした。たくさんの生き物がいてびっくりしました。ぬるぬるしたのやざらざらしたのやつるつるしたのやいっぱいいました。ぬるぬるしたのには、タコやエイがいて、タコにはきゅうばんでくっつかれてエイは大きかったです。アサリやシャコやカニもいました。ヒトデは最初は、何かかんだりするのかなあと思いましたが、何もしませんでした。たくさんの魚をさわられてよかったです。あみなげも、とっても楽しかったです。 [NYさん]

2) その他の取り組み 総合的な学習の時間を使って、船で佐賀空港沖まで出かけてあさり採りを行ったり、潜水服装着体験なども行って、子どもたちに地元の産業を知ってもらう取り組みを行っている¹³⁾。



写真21 6月23日出港

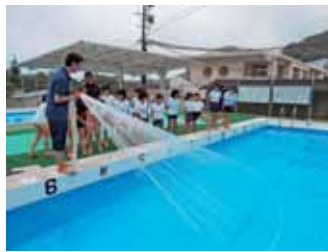


写真22 6月26日投網体験



写真23 潜水具装着体験

9. 太良町立多良小学校 (所在地: 太良町大字多良1254)

本校は、児童数が1年生39人、2年生34人、3年生48人、4年生43人、5年生54人、6年生45人、特別支援学級10人の計273人となっている。当地区も海に隣接する沿岸の小学校であるが、町役場等行政機関があるなど街的な要素が強く、ために漁業の町としての色合いは、大浦よりも薄い。本校でも、かつては、漁船による沖の島巡りや七浦海岸での干潟体験などを行っていたが、前者については予算がつかなくなったことで、昨年取りやめてしまった。かつての取り組みの中でも特筆すべきは、「ゆたたりの里調査隊」と称して地元の産業などいろいろな調査を行っていたことであり、その一環として海の体験学習も盛んにわれていた¹⁴⁾。現在は、近



写真24 かつて行っていた沖の島全景



写真25 沖の島上陸



写真26 かつての漁業体験

場の海辺で生き物探しを行っている¹⁵⁾。

10. 白石町立有明東小学校（所在地：白石町牛屋6833-2）

本校は、児童数が1年生25人、2年生31人、3年生24人、4年生19人、5年生24人、6年生23人の計146人ある。本校は、低平な干拓地の真ん中に位置し、海にも近い。本校での海洋教育に関わる取り組みは、以下の通りである¹⁶⁾。

1) 4年生総合の学習「有明海は宝の海」 4年生の総合的な学習の時間では、1年間有明海に関する様々な学習活動を行っている。その大まかな指導計画は、以下の通りである。

総合の時間「有明海は宝の海」

時期	学 習 内 容
4月	有明海ふしぎ発見。有明海ってどんなところ？
5月	有明海を見に行こう。
6月	有明海のふしぎを見つけよう。
9月	有明海で確かめよう。
10月	有明海のすてきを伝えよう。有明海のすてきをまとめよう。
11月	有明海のすてきおしえます。
1月	たくさんの人に伝えたい有明海のすてき。

2) 4年生の干潟体験 上記学習の一環として、本年度は、9月11日（金曜日）半日を使って実施した。場所は、鹿島市七浦海浜公園、有名な「ガタリンピック」の会場地である。内容としては、干潟の生き物観察、潟スキー体験、人間ムツゴロウとして泥にまみれるなど子どもたちも大いに楽しめたようである。

児童の感想：この前干潟体験をして、予想以上に楽しかったです。カニやトビハゼを取ったりしました。最後に先生にみんなでどろを投げて遊びました。そしたら先生がどろだらけになって、目と口しか見えなくなりました。そして先生がどろを投げようとするみんな逃げました。そこが楽しかったです。 [FD君]



写真27 潟スキー体験



写真28 銅像ではありません。どろだらけでたたずむ先生だそうです。

3) その他の学習 訪問した11月19日に、4年生を対象として筆者による有明海に関する授業を行った。授業は、事前に子どもたちからもらっていた質問に答える形で45分を使って行った。子どもたちの質問は、以下の通りである。

1. 魚グループ

①有明海で一番大きな魚は？②一番多くとれる魚は？③有明海に毒をもった魚はいるのか？

2. 貝グループ

④貝はどんなえさを食べているか？⑤貝のオスとメスの見分け方は？⑥有明海に食べられない貝はいるのか？

3. のりグループ

⑦のりづくりでは何月が一番忙しいか？⑧のりはなんで四角なのか？

4. 堤防グループ

⑨過去に大きな津波は何回あったか？⑩有明海沿岸堤防の大きさ(長さや高さ)はどれくらいか？

5. 有明海産の料理グループ

⑪一番有名は料理は何か？⑫一番人気のある料理は何か？

3. '魚食'の対象たる佐賀県の伝統的な魚介類食

本章では、佐賀県域に伝わる伝統的魚介料理としてピックアップすることができた品目を紹介する。なお、析出の方法として、関連文献¹⁷⁾から伝統的魚介料理のリストを作成し、佐賀県栄養士会を通じて紹介いただいた郷土料理に詳しい方のチェックを経て75品目を選定することができた¹⁸⁾。

1. ムツゴロウのかば焼き：ムツゴロウに串をさし、素焼き後たれに浸して両面を焼く。
2. ムツゴロウのみそ汁：ムツゴロウをぶつ切りにし、から炒り後煮て味噌を溶き入れる。
3. イカのかけあえ(かけあい)：湯通しイカを短冊に、すり煎りごまに砂糖酢味噌を加えキュウリ、ニンジンをなじませる。
4. イワシのかけあえ(かけあい)：イワシを処理後砂糖酢につけ、塩もみ大根をあえる。
5. アジ・サバのかけあえ(かけあい)：魚の切り身をすり煎りごま、砂糖酢味噌でしめさがき大根をあえ、千切りショウガを上に乗せる。
6. ウミタケのかけあえ(かけあい)：ウミタケを線切りにする。ゆがいた小ネギと一緒に皿に盛って酢味噌を添える。
7. 餅米入りウミタケ：洗って水に浸けた餅米をウミタケの腹に詰め、爪楊枝で止め、ミリン、醤油、砂糖で煮て輪切りにして盛りつける。
8. クチゾコの煮付け：クチゾコを処理後、醤油と酒を煮立ててさっと煮る。
9. シャツパの塩ゆで・煮付け：シャツパ(シャコ)を塩ゆでか薄味の醤油で炊く。
10. エツの刺身、煮付け：エツを細切りにし、醤油をつけて食べたりかけあいに、また、骨切りをして醤油と砂糖を入れて煮る。
11. 赤ゴゼの味噌汁：鍋に処理した赤ゴゼを入れ、煮えたら火を弱め味噌を入れる。
12. ハダラ(サツパ・シャツパ)のぼんぼん焼き：ハダラ(シャコ)を素焼きにして醤油につけて食べる。
13. がん漬：本がに(シオマネキ)をたたきつぶし、塩、刻みコショウを入れ、かめに詰め

て1か月程で内臓や肉が溶けて味がなじむ。

14. アミ漬：アミ（オキアミ）を多めの塩を入れて漬ける。茶がゆ、ご飯のおかず。
15. 須古すし：すし飯を箱に入れて押し、四角に切り目を入れ、上にムツゴロウの蒲焼きなどの具をのせて飾る。
16. メカジャーのから炒り：メカジャー（ミドリ三味線貝）を鍋でから炒りし、塩、ミリンで味をつけ、七味唐辛子をふる。
17. 揚げ・焼きワラスボ：干しワラスボを適当に切り、油で揚げたり焼いて適当に切り、つけ汁に浸けて食べる。
18. ワラスボの味噌汁：ワラスボをぶつ切りにし、内臓、身をから炒りした後、煮て味噌を溶き入れる。
19. イカナゴご飯：米、イカナゴの煮干し、醤油、塩少々を釜に入れ、普通に炊き、おにぎり等にして食べる。
20. おとふせいも：サツマイモを大釜に入れ、その上にオトフセ（カキ）を山盛りにのせ、水を柄杓一杯程加え、いもが煮えるまで炊く。
21. ぐざのかまぼこ：ぐざ（雑魚）の天ぷら（さつまあげ）。
22. 煮じゃー：鶏骨出汁、かしわ、ブリ切り身、エビ、シイタケ、ゴボウ、サトイモ、ニンジンなどを煮て片栗粉でとろみをつける。
23. ばらずし：ブリ等の刺身を酢、砂糖、塩に漬け込む。酢飯を作る。魚半分を混ぜ込み、残りをすし皿に盛って紅シヨウガやノリと飾る。
24. 押しずし（押し出しずし）：酢飯を作って木型に詰め、上飾りに刺身魚、サンショウの葉、生シヨウガの薄切りをのせ、型で押し。
25. 混ぜご飯（いお飯）：小切りし甘辛く炊いたニンジン、コンニャク、ゴボウ、干し大根等とほぐした煮付け魚をご飯に混ぜ込む。
26. 吸いもの汁：大鍋に大根、ジャガイモなど季節の野菜とイワシを入れて醤油で味付けして炊く。
27. ぐれあえ：ゆでた小イカと千切り大根、ゆでニンジンや白菜、生ワカメをすり鉢で味噌とゴマをすってあえる。
28. 小アジ、ホリのせごし：処理をした小アジやホリ（ベラ）を皮つきのまま中骨ごと薄切りにし、酢ぬた、酢醤油で食べる。
29. アラカブの味噌汁：処理をしたアラカブを鍋に入れ、魚が煮えた頃味噌を加えて青ジソを散らす。
30. タイの姿焼き：浜焼きとも言う。海岸でもだてして焚き火をする。塩をふったタイに串を刺し、火加減に注意しながら焼く。
31. ガゼ味噌：ガゼ（ウニ）をゆでて中身を取り出し、味噌を加えてすり鉢ですり込む。ご飯に添えたりあえものにする。
32. めかぶのとろろ：ワカメの芽株をゆで、包丁で刻んでたたき三杯酢で食べる。
33. ヨガマタのつくだ煮：黒色の海藻で、油少々で炒めた後柔らかくなるまで煮て醤油味を付け、麦飯にかけて食べる。
34. アオサのつくだ煮：アオサを洗い、包丁でざっと刻んでから鍋に入れ、醤油と砂糖少々で味付けし、軟らかくなるまで煮る。

35. 冷や汁：味噌をすり鉢ですり、冷水でのぼし、ほぐした焼き魚身、焼きスルメ、輪切りキュウリを入れて混ぜ、麦飯にかけて食べる。
36. イワシの塩辛：カタクチイワシに塩、トウガラシまたはサンショウを混ぜて漬け込み、5日程で食べられる。
37. イカの塩辛：ガンセキイカ（スルメイカ）のわたを抜いて細長く切る。きもをイカと混ぜ合わせ、塩とトウガラシを混ぜて漬け込む。
38. カジメの味噌漬、カジメの味噌汁：ゆがきカジメを端から巻いて味噌に漬け込み、細かく切って食べる。刻みカジメを味噌汁に入れる。
39. 魚入り大根なます：線切り大根、ニンジンと輪切りキュウリに塩をして絞り、細切れの生魚を入れ、酢、砂糖醤油で味をつける。
40. イリコの佃煮：醤油、砂糖、酒を煮立てた中にイリコを入れ、ゴマ、七味を加えて煮詰める。
41. だぶ：一口大の白身魚と小切りこんにゃく、揚げ豆腐などを鍋で煮、砂糖、醤油、酒、塩で味をつける。
42. むしり鯛：姿煮の鯛、煮たサトイモなどを大皿に盛りつける。鯛は、むしって食べる。
43. サザエの炊き込みご飯：身を取り出して小切りにしたサザエをご飯で炊き込む。
44. サザエの壺焼き：サザエを焼いて身を取り出し、酒、醤油、味噌で味をつけてもう一度焼く。
45. ジャコ飯（ひば飯）：米にイリコかチリメンジャコを入れ、醤油を加えて炊く。塩をした大根葉を加えるとひば飯になる。
46. イワシのコロッケ：ゆでジャガイモと塩焼きイワシ、みじん切りタマネギを小判型に丸め、衣を付けて菜種油で揚げる。
47. アマダイのゴマあえ：処理をしたアマダイの身をゴマ醤油であえて器に盛り、真ん中に卵黄を置き、これと混ぜながら食べる。
48. 伊勢エビの味噌汁：鍋に油を熱した中で切り分けた伊勢エビを炒めあげ、水を加えて煮る。麦味噌を入れて椀に盛る。
49. 煮ふたち鯛：タイの姿煮。大鍋にコンブを敷き、味付けした汁にタイを形がくずれないようにそっと入れて煮る。
50. ノビルとアサリの酢味噌あえ：湯がいて適当に切ったノビルと湯がきアサリむき身をすりゴマに味噌、酢、砂糖を加えてあえる。
51. ハマグリのお吸い物：鍋に水と貝を入れてアクを取りつつ煮立て、完全に貝の口が開いたら塩を加えて味を調える。
52. トコロテン：干しテングサと水を煮溶かし、木綿布でこして流し箱に入れ冷蔵庫で冷やし固め、てん突きで突いて酢醤油で食べる。
53. イワシの昆布巻き：昆布にイワシと拍子切り大根、ニンジン巻き、細切り昆布で結ぶ。鍋に水と味噌、昆布巻きを入れ煮立てる。
54. 魚と野菜の煮しめ：サバの切り身を煮る。コンニャク、レンコンなどを煮、魚と一緒に皿に盛りつける。
55. タイの南蛮漬け：タイに片栗粉をまぶして油で揚げ、千切りタマネギ、ニンジンを出汁に浸け、タイも加えてゆでる。

56. サバの潮汁：塩をした切り身サバと白菜や大根などの野菜を鍋で煮、味を調べて椀に注ぎ、薄切りショウガとユズ皮をのせる。
57. ヒジキ煮：ヒジキを油で炒めて出汁を加え、ニンジン、ゆがきコンニャク、薄揚げなどを入れて酒、砂糖、醤油を加えて煮詰める。
58. サバの味噌煮：鍋に水と酒、味噌、サバ身を入れてアクを取りながら煮詰める。皿にサバ身、上に針ショウガを盛る。
59. 筍干盛：端午の節句の祝い料理。タイや伊勢エビの汁でタケノコ、フキ、ゼンマイ、ウドなどを薄味で煮て大皿に盛りつける。
60. タラのわたの煮付け：水に浸けてもどしたタラのわた（タラおさ）を適当に切って水煮し、砂糖、ミリン、醤油で味をつける。
61. ビナの味噌汁：ビナ（巻貝）を水に浸けてぬめりを取り、水、味噌で煮る。汁だけ先に飲み、ビナは後で身を取り出して食べる。
62. いらやき：皮クジラと赤身を鍋でから炒り後水を加え、コンニャクや大根、豆腐などに味付けして炊く。すき焼き風に砂糖をきかす。
63. 黒皮なます（大根とクジラのなます）：千切り大根とニンジンを塩もみ後絞り、皮クジラと野菜を酢と砂糖少々であえ、醤油を落とす。
64. クジラの炊き込みご飯：クジラの赤身と皮にニンジン、ゴボウ、タケノコなどの野菜を加え、砂糖、醤油で味をつけて炊き込む。
65. 湯かけクジラ：薄切りおばクジラを塩出しし、熱湯に入れた後ざるにあげる。水洗いして冷やし、甘味噌をかける。
66. 鹿の子クジラと青タカナの煮しめ：鹿の子クジラの薄切りを煮る。下ゆでしたタカナを入れ、ゆっくり煮てクジラの味を含ませる。
67. クジラとタケノコの田楽：適当に切った煮タケノコの中に塩を落とした塩クジラを入れ、味噌、酒を加えて煮、砂糖で味を調える。
68. 皮クジラと大根の煮付け：輪切り大根をゆで、結び昆布、皮クジラを鍋で煮、醤油、砂糖で味をつける。
69. フナのこぐい（フナンこぐい）：鍋にフナ（昆布で巻く時も）を並べ、ゆる火で炊く。味をすめ（古赤味噌）とあめがたで調える。
70. ドジョウ汁、ドジョウの油炒め：湯にドジョウ、水イモ、イモガラ、豆腐を入れ、味噌を溶く。また、油炒めして醤油で味を付ける。
71. フナの刺身：フナのうろこを取り、頭を落とし、はらわたを出して身をおろして皮をむく。薄切りにして酢味噌で食べる。
72. ウナギのかば焼き：炭をおこし、串を打ったウナギを素焼きにし、砂糖、酒、醤油を煮詰めたたれをつけながらかば焼きにしていく。
73. シロイオ汁：コブ出汁が煮立ったらシロイオを入れ、塩、醤油で味付けする。春菊を加え、溶き卵を流して、あつあつを食べる。
74. ハエの油炒め：川で捕ったハエ（ハヤ）は、頭とはらわたを取り洗って塩をし、油で揚げると。普通は、醤油をつけて食べる。
75. タニシの煮付け：大釜でゆがいて1つずつ針で身を取り出す。中身を砂糖と醤油で甘辛く煮付ける。

佐賀県域は、面積上では小さな県であるが、北に厳しい荒波に鍛えられた玄界灘の魚介、南に揺り籠のような優しい環境で育った有明内海の魚介、さらに水田地帯を縦横に走るクリークに生息する淡水魚介と、あらゆる魚介食材に恵まれた希有の地域と言える。そういった環境下で長年育まれた伝統的魚介料理は、しかし、現在では、漁業環境の変化に伴う食材生産の減少、魚介料理の技術を保持してきた人材の超高齢化、食の多様化、西欧化に伴う‘魚離れ’などもあって風前の灯火の状況にあるものも多い。これらの失われつつある伝統食文化を記録に残すだけでなく、次世代に引き継いでいくためにも、学校における食育の取り組みは重要な意味を持つ活動と言えよう¹⁹⁾。

4. 終わりに 異なる環境下における海洋教育の展開の可能性

以上、佐賀県下の10校それぞれにおける海洋教育に関する取り組みについて紹介してきた。それぞれの学校を立地環境で分けて説明すると以下ようになる。

- ①玄界灘沿岸の漁業拠点の学校：唐津市立湊小学校，唐津市立呼子小学校
：子どもたちが海に親しむ機会が多く，海洋教育に対する関心も当然ながら高く，様々な取り組みがなされている。
- ②玄界灘沿岸の非漁業拠点の学校：伊万里市立牧島小学校
：海は子どもたちにとって身近な存在である。特に地元貴重種のカブトガニを通じて海洋環境を考えることができる点で恵まれた学校である。
- ③内陸・山の学校：唐津市立簗木小学校，佐賀市立北山校
：隔海度が大きく，子どもたちにとって普段海は遠い存在である。しかしながら，テレビ会議システムを使った疑似体験が，貴重な海洋教育の機会となっている。
- ④都市（街）の学校：佐賀市立勸興小学校
：佐賀市の街中も，距離的にも意識的にも海は遠い存在と言えよう。したがって，沿岸での宿泊学習が海に接する貴重な機会となっている。
- ⑤有明海沿岸の干拓地周辺の学校：佐賀市立東与賀小学校，白石町立有明東小学校
：沿岸からは少し内陸に入る両校であるが，有明海でのガタリンピックを通じてのどろ遊び，海の生活への関心，さらにラムサール条約の登録地となったことから環境問題に対する意識が非常に高い。毎年継続する積み上げ式の教育も地元を誇りを持つよい機会となっている。
- ⑥有明海沿岸の漁業拠点の学校：太良町立大浦小学校，太良町立多良小学校
：有明海沿岸の漁業拠点にあることで，もともと子どもたちの海に関する意識は高い。有明海の真ん中にある沖の島探訪など，他の地域ではできない取り組みが興味深い。

佐賀県では、それぞれ異なった環境下でそれなりの対処の仕方可能な限りの海洋教育への取り組みがなされていて、非常に興味深いものがあった。もっとも、訪問調査した学校は、市町教育委員会から熱心な取り組みを評価されて紹介されたところであるから、この10校の取り組みだけを捉えて佐賀県の海洋教育に対する取り組みを評価することはできないが、それぞれの取り組みが、他の地域にも応用できるものも多くあり、そういった意味でも、今後の海洋教育に対する取り組みの可能性を広げる視点を持ち得たのではないかと考える。

本研究を行うに当たっては、2014年日本財団海洋教育促進プログラム（事業ID:2013153131）の助成を受けました。調査に当たって、各市町教育委員会、各学校の諸先生方、佐賀県栄養士会およびその関係の皆様方他、多くの方々にお世話になりました。記して感謝申し上げます。なお、本稿に掲載した海洋教育に関する授業案などの資料や写真は、全て各小学校より掲載許可を得て提供いただいたものである。この点についても記して感謝申し上げます。

注

- 1) 中村周作 (2015) : 「離島の小中学校にみる海洋教育の実践状況 -長崎市新上五島町を事例として-」, 宮崎大学教育文化学部紀要社会科学33, pp.1-17.
- 2) 調査は、2015（平成27）年9月7～11日、および11月18日～21日にかけて各校訪問調査を実施した。この他、海洋教育の食育に関わる基礎研究として、佐賀県の地産食材を使った伝統的な魚介類食に関する調査（伝統料理の析出と摂食頻度に関する住民アンケート調査）を実施した。
- 3) 子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである〔食育基本法前文（一部省略）〕。（食育基本法：平成27年9月11日、法律第66号）。
- 4) 湊小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校山下定則校長による。
- 5) 巻木小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校古川元視校長による。
- 6) 呼子小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校下田秀人校長による。
- 7) 波戸岬少年自然の家は、唐津市鎮西町に1999（平成11）年に開設されたカッターボート漕ぎやシューノーケリング、魚釣り、磯観察など、海に関わるいろいろな学習活動の拠点であり、県内の小中学校の宿泊学習に利用されることも多い。
- 8) 牧島小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校尾崎達也校長による。
- 9) 北山校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校天野雄二教頭による。
- 10) 勤興小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校中村敏智校長による。
- 11) 2015年4月にラムサール条約の国際的保護区として有明海の東与賀干潟と鹿島干潟が登録された。
- 12) 東与賀小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校北村勢津子校長による。
- 13) 大浦小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、同校古賀敏文校長、安西修教頭および教務主任杉田啓一郎先生による。
- 14) 多良小学校 (2012) : 『ゆたたりの里調査隊最終報告書』同小5年1組。
- 15) 多良小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、上野義晴校長他による。
- 16) 有明東小学校における海洋教育に対する取り組みに関する情報は、藤井裕明校長他による。
- 17) ①「日本の食生活全集 佐賀」編集委員会編 (1991) : 『日本の食生活全集41 聞き書 佐賀の食事』, 農山漁村文化協会, pp.1-355。②伊万里市食生活改善推進協議会 (2009) : 『いまりの郷土料理』, 伊万里市食生活改善推進協議会, pp.1-72。③鹿島市教育委員会 (1986) : 『ふるさとの味』, 鹿島市教育委員会, pp.1-16。④佐賀農業産地づくり運動上場技術指導部 (1990) : 『うわばの味をあなたに』, 佐賀農業産地づくり運動上場技術指導部, pp.1-24。⑤佐賀農業農村むらぐるみ発展運動武雄・杵島地区推進支部・経営技術指導部 (1999) : 『武雄・杵島のふるさと料理と手作り食品』, 佐賀農業農村むらぐるみ

発展運動武雄・杵島地区推進支部・経営技術指導部, pp.1-61。⑥鳥栖市食生活改善推進協議会(2005):『鳥栖の郷土料理』, 鳥栖市食生活改善推進協議会。⑦佐賀県栄養保健推進協議会(1984):『佐賀の郷土料理』, 佐賀県栄養保健推進協議会, pp.1-77。⑧佐賀県観光連盟(197-):『ふるさとの味佐賀県の郷土料理』佐賀県観光連盟, pp.1-16。

18) 品目の選定に当たって西九州大学元教授 澤野香代子氏にご協力いただいた。

19) 75品目の魚介料理について、佐賀県内各地で現在どのくらいの頻度で食べられているのか(摂食頻度)について現在、県内全域365件アンケート調査中である。